

安心とつるおいの下町「川の手」をめぐって



# 防災 まちづくり瓦版

発行／墨田区都市整備部開発促進室

昭和60年9月1日

## 一寺言問地区を防災まちづくりの原点に！

まちづくりスタッフ・イベント企画・まちづくり提案募集中！  
ごどもからお年寄まで元気な「一言人」の知恵と手足を！

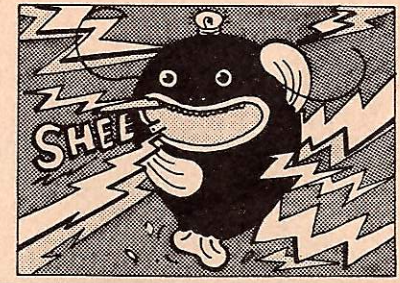


上空からみた一寺言問

墨堤、歴史を感じさせる店や家、横丁や路地に下町の風情を残すまち、関東大震災を乗り越えたまち、一寺言問地区（向島五丁目、東向島一丁目・三丁目、堤通一丁目）・・・墨田区は一寺言問地区を防災まちづくり推進の第一号モデル地区として、防災まちづくりの原点にしていきたい。みなさんといっしょに一寺言問のまちについて考え、ある限りの知恵と力を出し合って力強く、しかも楽しく防災まちづくりを進めていきたい。そう考えています。

地震が来ても逃げずにすむまちを、「川の手」らしいおいのあるまちを、つくり続けて行くための願いをこめて、「一寺言問・防災まちづくり瓦版」第一号をみなさんにお届けします。

## なます君の要石探し

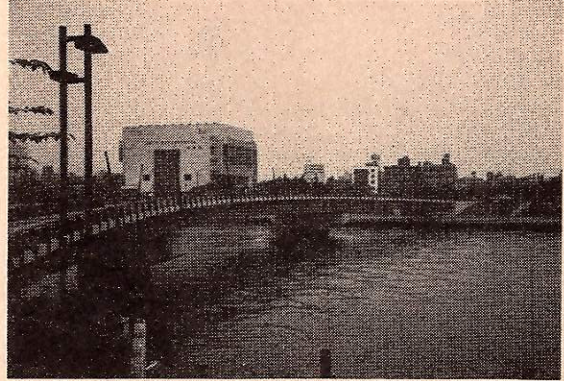


## 防災区画化計画のモデルになりませんか

「自分たちのまちは自分たちで守る」まちづくり、墨田区防災区画化計画のことはすでにご承知のことかと思えます。大地震時の市街地大火を防ぐために墨田区内を二五地区にわけ、それぞれで「火を出さない」「火をもらわない」という防災上独立したまちをつくり、物的な面での防災対策と人的な面での災害に対する備えを強化していくとする計画です。

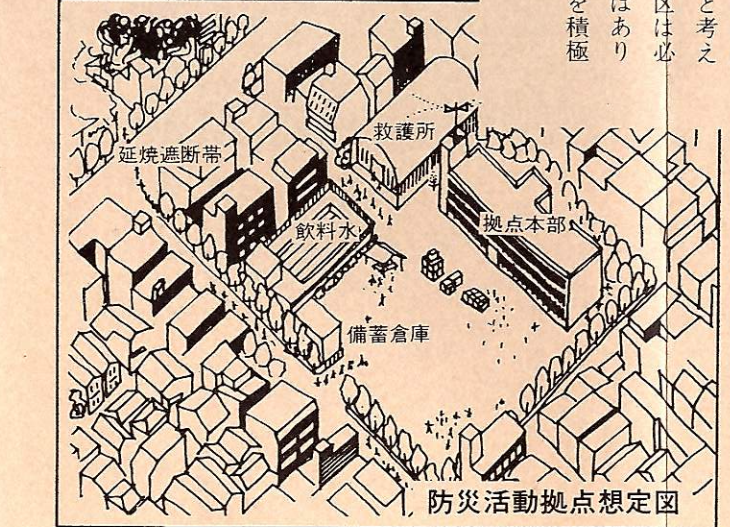
大通り沿いの建物を不燃化して延焼遮断帯をつくったり、小学校を拠点にして消防活動や情報活動、救護活動がおこなえるように防災態勢を整えようとする計画です。

区では、この防災区画化計画のモデルとして、一寺言問の防災まちづくりを進めたいと考えております。一寺言問地区は必ずしも災害に強いまちではありません。防災まちづくりを積極的に進めてみませんか。



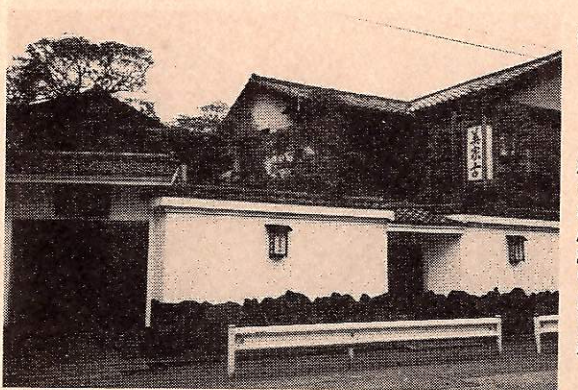
① ぼくは桜橋を渡って一寺言問に行きました

## 関東大震災でやけたところ

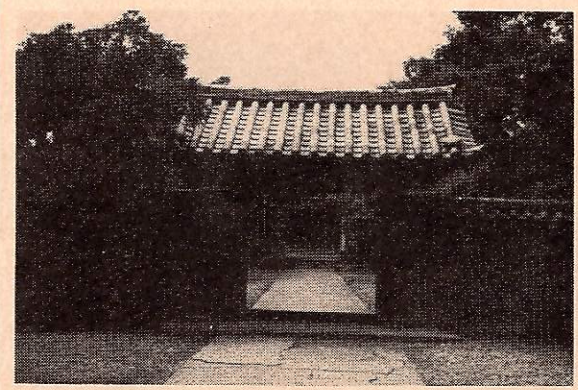


## 一寺言問の由来

瓦版を出すから、まちの愛称を付けてくれというので、一寺言問（いちてらこととい）と付けてやった。防災活動拠点が第一寺島小学校と言問小学校だから、一寺言問にしたんだ。ぼくよりもすてきな名前を考えついた人、いませんか。  
～一寺言問の名付け親より



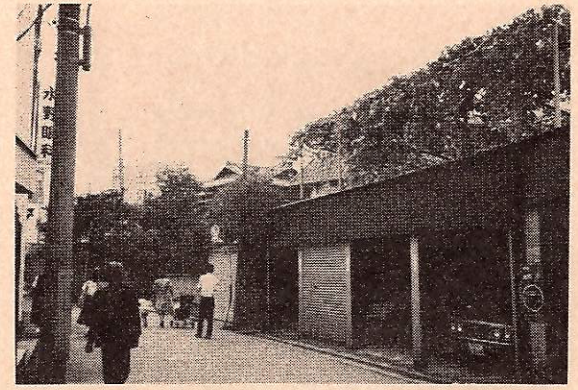
② 風情のある料亭が  
たくさんありました



③ お寺や神社が  
たくさんありました

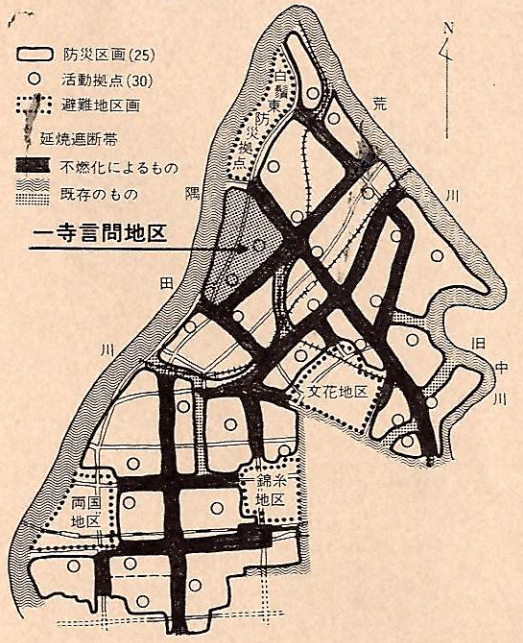


④ 地藏坂の縁日は月に  
三回もやっていました



⑤ 緑が思っていたよりも  
たくさんありました

防災区画概念図



参加しよう！あなたのまちづくり

従来、まちづくりといえば、区が計画をたて、それを皆さんに提示する方法を進めていました。しかし一寺言問のまちづくりはそのようなスタイルをとるものではありません。このまちのどこをどのように改善改良すればいいのか、どんな約束事を設ければ、より住みよい安全なまちになるのか、住民の皆さんが中心となって考え、まちづくりの計画をすすめていただきたいのです。

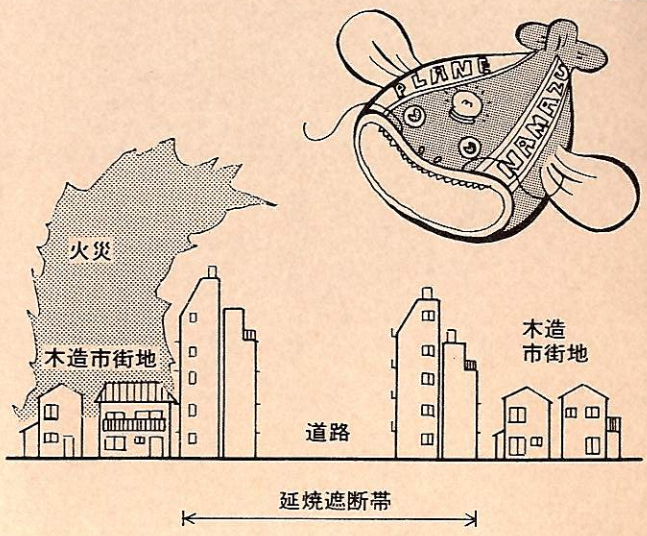
区では皆さんの計画づくりを

今まちづくりにたくす「川の手」の願い

街路が狭く木造家屋が密集しているというこのまちを歩いてみると、意外に緑が多く、隅田川七福神や向島百花園、料亭街

**文化財がこんなに**

一寺言問は比較的若い下町なのに、文化財がたくさんある。江戸町人文化のひとつの結晶ともいえる重要文化財の向島百花園、子育て地蔵や白鬚神社などの名碑、谷中の七福神や白鬚神社など古い隅田川の七福神、「花といえば向島」といわれた墨堤の桜、そして下町情緒たっぷりのまちとそこで暮らす人々……。



**なまず・要石・瓦版**

安政大地震の後、瓦版として〈なまず絵〉が大量に描かれ、地震のシンボルとなった。地震の神様、鹿島大神宮がなまずを押えこらしめる要石のシリーズや、被害者のうらみをなまずにはらす作品。なまずの眠りを借りて世直し、御政道批判をする瓦版まで、なまず絵のなまずはさまざまな性格、図柄で人気を集めた。



建て替える際に不燃化したり、共同化して庭を広くしたり、ブロック塀を生け垣にしたり……。消火用具、救出・救護用具、避難用具をまちや家庭で備えておいたり、防災訓練に参加して初期消火のやり方に慣れておいたり……。こうした小さな積み重ねがまちを少しずつ安全にしている。それは思いませんか。そして何よりも隣り近所との親しい付き合いが「川の手」の良さでしょう。いざという時に互に助け合えるまちがどんなに被害を少なくさせることができるか。

今、このまちではお年寄りが増えつつあります。お年寄りにとって住みよい暖みのあるまち、そして次の世代にも受けつげる良さを残せるまち「一寺言問」が、皆さんの力で築けたらと願っています。

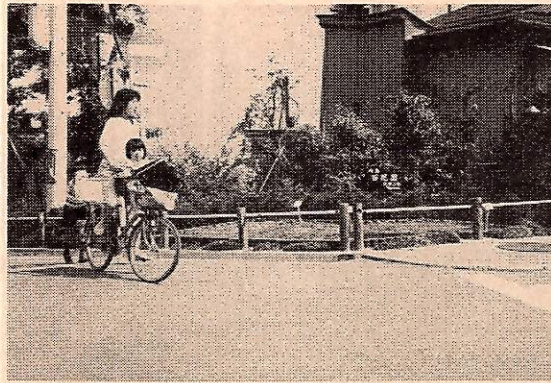
⑥ 延焼遮断帯づくりが進められていました



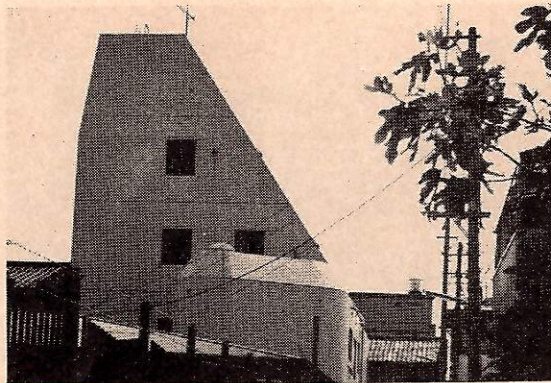
⑦ 学校が防災活動拠点になっていました



⑧ 空気がポケットパークになっていました

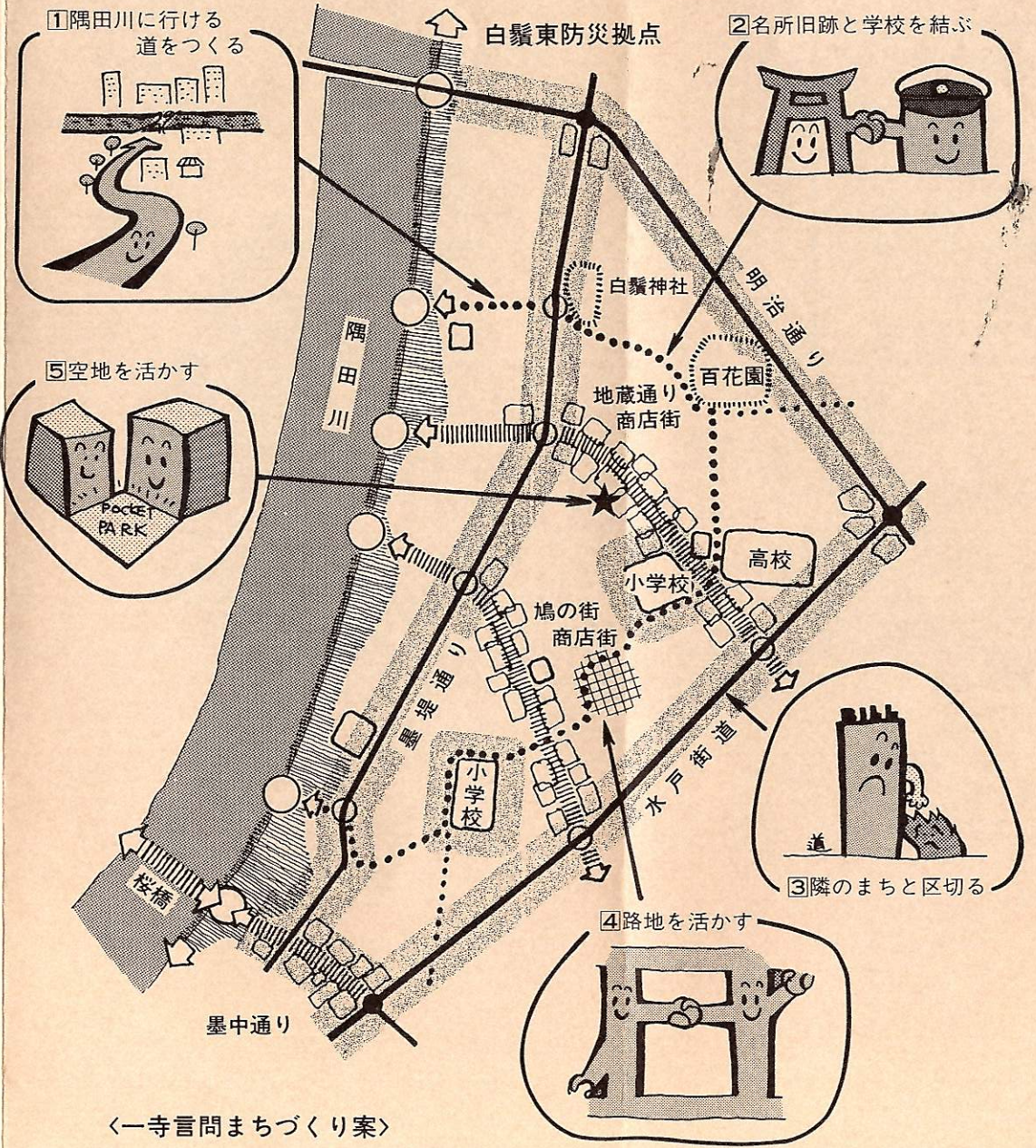


⑨ 新築の建物は不燃化されていました



⑩ 一寺言問っ子が生き生きしていました

いまあるものを活用したみちづくり・ひろばづくり・まちづくり



〈一寺言問まちづくり案〉

皆さんのまちづくりのヒントになれば幸いです。ひとつのまちづくり案をつくってみました。

① 隅田川に行ける道をつくる

桜橋ができました。隅田川が注目をあびています。桜橋にきた人々を商店街に導くために、また一寺言問から隅田川へ気軽に行けるように道を整備したらどうでしょうか。この道は災害時にも利用できます。

② 名所旧跡と学校を結ぶ

向島百花園などの名所旧跡と小学校などの公共施設を結んだらどうでしょうか。そしてその道を緑化したり、舗装を変えたりして、歩きやすい道にしてみたらどうでしょうか。ふだんは散歩道や通学路になります。避難の時にも役立ちます。

③ 隣のまちと区切る

隣のまちと区切る幹線道路沿いは、中高層化をはかったり、活力ある商店街として整備してみたいかがでしょうか。そうすれば歩行者にとっても魅力的

なまちになるし、隣のまちからの延焼を遮断することにもなります。

④ 路地を活かす

行き止まりの路地は裏木戸をつくって緊急時の通行協定を結び、通り抜けられるようにしたらどうでしょうか。そうすれば、火災が発生した時に表からも裏からも消防活動ができるし、逃げ道も確保できるでしょう。

また、ブロック塀を生け垣にしたらどうでしょうか。路地の緑は増えるし、地震で塀が倒れる心配もなくなります。

⑤ 空地进行を活かす

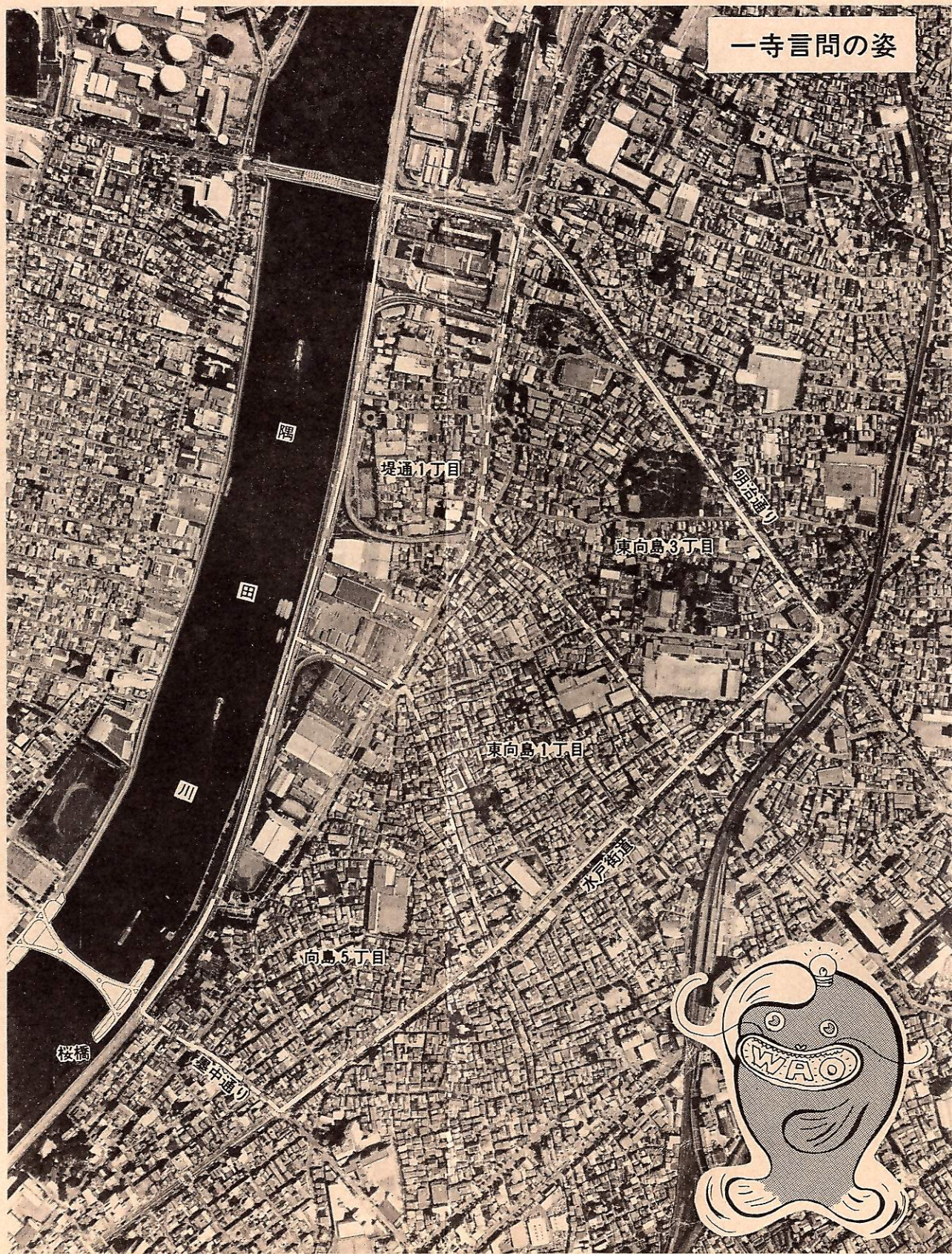
空地在が意外に多くあります。この空地进行をうまく活用する方法を考えてみませんか。路地と路地を結ぶポケットパーク（小公園）をつくったり、角地にちょっとしたミニ広場をつくったらどうでしょうか。そうすれば、子供たちの遊び場も増えるし、井戸端会議もできる。また角切りされて消防車なども通りやすくなります。

一人の声

- とにかくできることからやるしかないでしょう。みんなここで毎日一生懸命に生活しているのですから。
- 江戸時代の庶民的な下町の良さをそのまま残しながら、開発促進をお願いします。
- 道路環境を改善する方策は、区が空地を買収してそこに住宅を移動させるなどを、地域住民の協力のもとにおこなうことが大切であると思う。
- 隅田公園や百花園が近くにあるって緑には恵まれています。一軒一軒の家でもっと草木を育てれば、密集した家並みでも、一輪の花に心なごむことができると思うし、健康にも良いと思います。
- 最近狭い家の前を駐車場にしている所が多くなっています。火災を防ぐためにも、駐車場の立体化を望みます。
- 何事も十二分に話しあうことです。

(昭和五十七年住民アンケートから抜粋)

一寺言問の姿



ま<sup>かみいし</sup>ちの要石を  
探しませんか

一寺言問の良さを表わしているもの、改善を必要とするもの、まちづくりの手がかりになるもの、そんな「要石」をあなたも探しませんか。この秋におこなわれる「要石探しゲーム」にあなたも参加しませんか。なお瓦版は、あなたの見つけた要石の写真を募集しています。あなたの意見も添えてお寄せ下さい。

ぼくは要石が多いのに  
ショックを受けました



あなたをお待ちしています

1. まちづくりスタッフ募集

一寺言問について語りあう人。要石を探す人。まちづくりの方法を考える人。図面を書く人。イベントを企画する人。そんなまちづくりスタッフを募集。

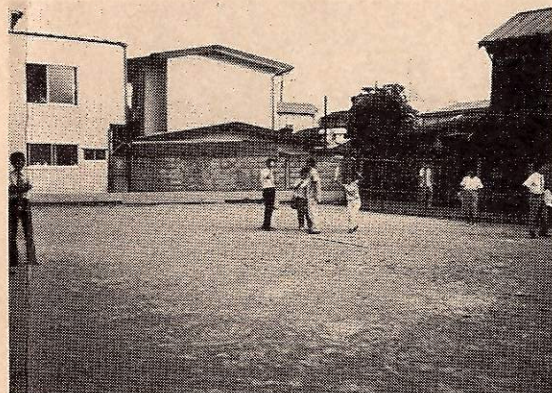
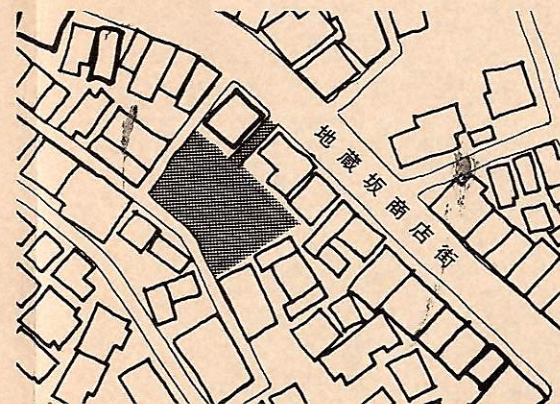
2. 広場を元気にする人募集

元気のでる広場第1号の利用計画（図面、絵、文章、なんでもよし）と元気のでる広場第2号の用地求む。

3. 瓦版一寺言問駐在員募集

震災・戦災体験記、「おもしろ一言人」の紹介、要石の写真（意見も添えて）なまず絵など、瓦版への投稿なんでもよし。「家に来てくれ」歓迎。

このコーナーのお便りは、折り込みのはがきでお寄せ下さい。あなたをお待ちしております。



元気の<sup>でる</sup>広場第一号

みんなのアイデアで広場に元気を



(626)3151 (内線 655)

墨田区都市整備部開発促進室  
池田成美 村田里美

こちら  
編集局

(816)4037

株 マヌ都市建築研究所  
鈴木隆雄 山本俊哉

地蔵坂通りからちよっとはいったところに区のまちづくり用地（約一二〇坪）があります。現在暫定的な子供の遊び場として整地等をおこなっていますが、今後、皆さんのアイデアがいっぱいこもった活用方法をみんなで考えていこうと思います。みんなで元気の<sup>でる</sup>広場にしませんか。他に適当な空地、うまく利用されていない空地があったら、それもみんなで元気の<sup>でる</sup>広場にしませんか。